



# 若者の定住と働き方を考える 地域円卓会議 in 南城市

チャンスを活かす地域人材づくり

## 実施報告書

日 時： 2017年3月5日(日) 10:00-12:30  
場 所： 南城市役所大里庁舎 3階市民ギャラリー  
主 催： 国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構、公立大学法人 名桜大学

報告書作成  
NPO 法人まちなか研究所わくわく  
公益財団法人みらいファンド沖縄

# ACTIVITY REPORT

## 【報告】若者の定住と働き方を考える地域円卓会議 in 南城市



- 日 時：2017年3月5日（日）10:00-12:30
- 場 所：南城市役所大里庁舎 3階市民ギャラリー
- 着席者数：9名（論点提供者、司会、ファシリテーター含む）
- 主 催：国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構  
公立大学法人 名桜大学
- 来場者数：20名（行政・企業・大学・NPO・市民）
- 協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄  
NPO法人まちなかわくわく研究所
- お問合せ：国立大学法人 琉球大学 総合企画戦略部  
地域連携推進課

### 論点提供 玉城 勉 氏（南城市役所 企画部 部長）

#### チャンスを活かす地域人材づくり

南城市は合併11年を迎え、人口も合併時の40,759人から43,200人余に増えています。一時の人口停滞時期もあり、なお多くの課題が存在しますが、南城市では2040年の将来目標人口50,000人の実現に向け、「南城ちゃーGANJU CITY 総合戦略」による地方創生に取り組むこととしています。那覇空港新滑走路や南部東道路の延伸と拠点施設の整備、MICEの受け皿など、南城市にとってのチャンスもあり、地方創生にこれらをどのように活かすか、その担い手となる人材が重要になってきます。今回の地域円卓会議では、大学との協働によりどのような取組みができるのか、関係者が共に解決に向けて取り組むため、地域課題を共有できるよう南城市の現状や計画等についてご紹介します。

#### センターメンバー



玉城 勉  
南城市役所  
企画部 部長



新城 辰夫  
つきしろ自治  
会 会長



竹内 章祝  
南城市地域雇  
用創造協議会  
統括事業推進  
員



西銘 朝也  
琉球大学  
理学部  
1年次学生



平野 典男  
琉球大学 観光  
産業科学部 観  
光科学科 教授



宮城 盛彦  
株式会社  
みやぎ農園  
代表取締役



天久 仁  
沖縄タイムス  
社  
編集局社会部  
南部報道部長

## ➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

### 事実の提供

- 南城市の基礎情報
  - ✓ 人口（2015年）42,900名
  - ✓ 2010年までは人口増加率が0.3%と低く、高齢化（21%）していたが、都市計画を見直し、土地利用の規制を外すことで、集合住宅（200棟、3,000人が入居）が作られ、人口が増えた。子ども人口比率の推移も16.2%（2010年）から16.8%（2015年）と持ち直した
  - ✓ 人口の独自推計でも、2025年の4万5千人をピークに減少していく。2040年には高齢化率は3割を超えそう
  - ✓ 3世代居住が多い。独居世帯は少ない
  - ✓ 大きな病院は市内に一つだが、医院は多い
  - ✓ 東側の利便性を上げるため、デマンド交通を行っている
  - ✓ 政策として、環境と共存できる企業を誘致したい
- 南城市の良さは、各集落のコミュニティがしっかりしていること
- 南城市の基幹産業である農林水産業は担い手が減少していて、若い人に入って欲しいが模索中
- 人口減少・高齢化による一番大きい課題は、コミュニティ、伝統行事の継承がなくなること
- 急激な人口増加の弊害は、新住民が行事に参加しない、自治会に入らない、などがある。また、一部地域に人口が増えて、学校がパンクしそうになっている
- 自治会の加入率は、6、7年前は7、8割で、近年低くなっている
- 現在、人口の地域間バランスが悪く、大里は増加、知念は減少している。バランスのある増加を目指したい
- 南城市の報酬は沖縄県の最低賃金くらい
- 南城市が本籍地の人は6万人なので、2040年に目標人口5万人というのは、大きな目標ではない
- 南部東道路ができると、那覇空港まで30分圏内になる。そして、知念地域まで南部東道路を伸ばしたい
- 新市役所は来年の3月に完成して、2018年度から機能する予定。2千台の駐車場がそばにある
- 商工会と連携し、空き施設を活用したインキュベーター施設を作った。4社のみだが1年目は無料
- 大里庁舎にソニービジネスオペレーションがくる。雇用は300名～500名規模。求められる人材は語学力がある人。ステップアップしていく人がいるので人材が足りない。地元の人を採用したいので、その企業が人材育成コストもかけてくれる
- 南城市では、琉大の観光科学科の先生が、ユインチホテル南城さんとスパ事業の展開について考えている
- 子どもは、ゆとり教育といわれているが、部活に塾に忙しい。つけ入るスキがない
- 昨年度、南城市へ就職した琉球大学卒業生は0人
- みやぎ農園は正社員9名（5名が大卒）、パート9名、今年4月に正社員が2名増える。大卒の定着率は高い
- 八重瀬町は津嘉山バイパスができて、10年間で人口が4,500人伸びている
- 若い人の話を聞くと、大手の企業で働きたい、生活の安定、金銭面、インフラ面を気にする
- これから県内にホテル100件、2万室の増加が必要になると想定されている。その為、100人の総支配人、500人の部長が必要になる
- 地域の従業員は人があつまる企業と人があつまらない企業があり、6ヶ月間、求人の応募がない企業もある
- つきしろ自治会は発足して28年目。800区画あって、400区画しか活用されていない。現在1,200名程度。大学生ぐらいの年代がいる世帯は20世帯ぐらい
- 若者に戻ってきてほしいので、つきしろ自治会では、ふるさと教育を行っている
- 南城市雇用創造協議会は地域で働く場を作っていくのが目的。就農支援のセミナー、パソコンの研修、観光事業の担い手育成を行う。また、育成された人材が地域で雇用されるように、合同企業説明会を行っている
- 琉球大学観光科学科60人の内、観光業に就職するのは3割程度
- 知念出身者は、知念小学校、知念中学校（同級生40名）に進む。南城市には高校がないので、進学先は向陽高校（同級生240名）、知念高校、南部商業に大体決まっている
- 高校卒業後の同級生は県外、那覇市で就職する人が多い
- 南城市に就職するイメージがなく、南城市で働きたい欲求はない
- 南城市は、芸術分野で県立芸大と包括連携を結んでいる
- 新卒を取りたい企業と新卒を取れない企業がある。新卒者は1～3年で辞めるので、投資価値を見いだせない。また、零細企業は少人数で利益を上げる必要があり、手一杯な状況である
- 学卒プロジェクト（主催：沖縄県、沖縄観光コンベンションビューロー）として、今年はそれぞれの地域の観光協会の方と大学生が、県外の学生の卒業旅行向けに、魅力的なプランを作っている
- 観光業は給与水準、雇用環境が他より少し悪い。両親が観光業に勤めていても、子どもには勧めない
- 南城市は元気があり、イベントの発信をしている人が多く、記事になる要素も多い。でも、その元気は努力の上であり、元気じゃない要素も感じた

## 視点の提供

- 他県からの転入者を、毎年1割（20人）増やしたい
- 南城市の地理的中心にあたるつきしろインターチェンジを都市的土地利用に変更することで、東側の生活利便性を高めたい。車の出入り口に手厚くまちづくりをするのが効率的
- シュガーホールの指定管理や、市民交流支援センター（新市役所）の運営を若い人、団体に任せていきたい
- リタイアした人は教える側で、給料はらってでも、区長には20代～30代になって欲しい。又は、班長でも良い。地域でキャリアを積んで社会にでると良い。行政も希望する若者がいれば、そういう環境づくりをしていく
- 大学生の意見として、責任は背負いたくない。若い人、自分の周りの人はプレッシャーに弱い。地域活動の話は普段はしないが、年配の方はこう考えているよ。と伝えていきたい
- 若い人は離職率が高く、企業に対して理想があり、やめてしまう。会社に100点を求めず、自分が入って100点にするように、就職する前から教育する。しかし、経営の問題でもあり、付加価値高めるように、事業所の意識も変える必要がある
- 仕事の現実は厳しくてもいいが、将来にビジョンを描けるように、ちゃんと将来像を見せる必要がある
- 高度の学歴を持った人が農業をすると幅が広がる
- 観光科学科に入ってくる学生は郷土愛が強いが、案外沖縄について知らない。知ることから始める必要がある
- これからの観光は地域主体でないといけない。地元の視点で観光の企画を考えるために、地域の方と共に考える
- 取材は結果だけを見るが、背景の努力や過程がわかるような取材をしていかないといけないと思った
- 人口を増やすだけだと那覇市で働いて南城市に住んでも良いのではないか
- 行政側としては、那覇で働く人向けの環境づくりもするが、企業が地元にあると収入が上がる
- 小学校から農業を考えるチャンス、素敵と思える機会づくりをして、農業を興味の持てる産業にする
- 開発による環境負荷と、人口増加、産業の活性化を並行して考えるようにする
- 大学生が南城市に来て、南城市の仕事を知る機会はないのではないか
- この仕事は南城市にしかない。という、オンリーワンの特徴ある仕事づくりをする
- 若者に経営者のビジョンを伝え、得意なことを聞く。その得意なことを活かせる職場づくりをする
- 定住や職を急いではいけない。意見が一致するのは簡単にはいかない
- ソニービジネスオペレーションの人材不足が課題で、大卒者が働ける環境づくりのケーススタディーとして考えたい
- 農水産業や観光業は小規模であるが、小規模でも付加価値を付けれるようにする
- 南城市佐敷小谷の地域まち歩きツアーを企画する為、琉球大学の先生、学生と小谷の方々が話をして、互いに考える機会を持ったら、大学生から地域貢献していきたいとの声が出てきた。現場を経験させ、地域に目を向けることが必要だと感じた
- 大卒者が地域に入っていける機会、地域の伝統行事やイベントのマネジメントを在学中から学べる仕組みづくり
- 教育プログラムに地域貢献を取り入れてはどうか

## ➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- **地域** 大学の教育プログラムを活用した、学生参加型の地域作りの現場を作る
- **仕事** 大卒者の能力を活かせる、南城市ならではの仕事を作り、大卒就労者の数値目標をかける
- **制度** 若者の地域づくりへの参画がキャリア形成となる制度を作り、持続可能な地域運営を目指す

## ■参加者によるサブセッション

### 「南城市における大卒者が働ける業種等どうすれば実現できるか」

#### 会場発表（3グループ）

- ① 働く人のやりたい事をベースにするなど、働く人がどう考えるか、というスタンスで考えてはどうか。

##### 【記載内容】

働く人のやりたい事（世界）（スキル）をベースに、色んなことをかけ合わせて、創造的にワクワクするような高付加価値化をする!! ex)農業×観光

- ② 今は、南城市で大学生を見かけなくなっていて、戻って来てもよそ者になってしまう恐れがある。大学生が地域に入っていくために、大学で培った技術、知識を活かして、コミュニケーションを再度形成していくことが必要。

##### 【記載内容】

・受け入れ先ではなく、仕組みづくりが必要→大学起業ベンチャーが地域でビジネスモデルを創っていく。 ・リーダー的資質+技術者

- ③ この仕事をする為には、南城市に行くしかない。特徴ある職場づくりをして、優秀な学生を受け入れるようにする。その為に、経営者の意識改革も必要で、優れたビジョンを持った経営者の下で働くことも重要。南城市には面白い事業所さんがあるよ、と情報発信をして、学生の意識も変えることが必要。待機児童の問題や医療費の助成などの整備をして若者に魅力ある町にする。

##### 【記載内容】

南城市における、大卒者が働ける業種。

- ・南城市ならではの業種を考える。 ・専攻ごとの仕事があれば就職できる。
- ・魅力ある経営者を増やす。

#### 会場からのアイデア（記載内容）

- ・みやぎ農園の水産業モデル
- ・高校を作る。(SONY 高校)
- ・内地で死ぬのはイヤだ。老後は沖縄。一度外へ
- 出た若者が戻って来れる環境づくり
- ・企業が行政や社会で目に見える役割がある。IT 関連企業。コールセンター。大企業の本部機能

# 若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議 in 南城市 参加者アンケート集計

## ◆概要

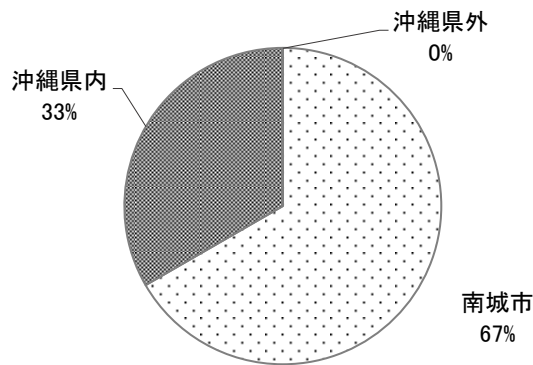
- ・ 日 時：2017年3月5日(日) 10:00~12:30
- ・ 場 所：南城市役所大里庁舎 3階市民ギャラリー
- ・ 着席者：9名(司会、記録含む)
- ・ 参加者：20名(アンケート回収9名、回収率45%)

## 4. 満足度

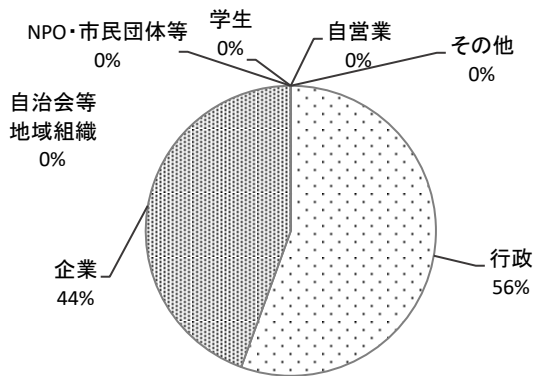
平均：4.3 (5点中)

5.満足	4.概ね満足	3.ふつう	2.あまり満足してない	1.不満足
3名	6名	0名	0名	0名

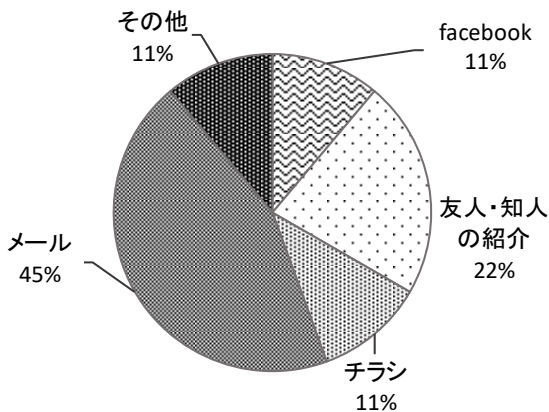
## 1. どちらから？



## 2. 所属



## 3. 円卓会議はどのように知ったか



## 5. 満足度の理由

### (5. 満足)

- ・ 各々の視点からの意見が多いに出て、その課題に対して、セッションするのは、いろいろな意見が出て、有意義でした。
- ・ 色々な分野の方の意見が聞けた。セッションが貴重だった。普段は求職者と接することが多いので、みやぎ農園さんのような事業所さんの話を聞いたのがありがたかった。改めて南城市の人口ビジョンの勉強ができた。ソニービジネスさんとやり取りがあるので、今後、雇用についても情報をつめたいと思った。
- ・ ITと農業と観光っていっけんバラバラな分野で点というイメージが以外とつながりがあるんだなと感じました。様々な方のたくさんの意見がきけて、圧倒したのとすごいなあと感じました。
- ・ 様々な立場、取組をされている方々からの視点で課題や根本問題を考えるきっかけになった。

### (4. 概ね満足)

- ・ 行政では、若い世代に移り住んで欲しいという目標があるが、そもそも南城市が基幹産業と考えている農業や観光業が既存のやり方では、若者や親世代からも人気がないということがわかった。
- ・ 地域円卓会議の流れを勉強させてもらうため、参加しました。センターメンバーのみならず、周りで参加しているメンバーも交えての意見交換をする中で、南城市をもっと良くしたい。とか、そのために乗り越えるべき課題を出し合うことができました。宜野湾市でも、地域

づくりのための市民討論会などがありますが、今後は積極的に参加してみようかとも思えました。

- ・ パネリストの選定が良かった。コーディネーターが話を引き出して、話が良く見えた。
- ・ 地域の問題を考えて多様な人との意見の中から新しいアイデアが生まれるのを感じた。
- ・ 南城市のことで知らない話が多くあった。また、色々な人の意見を聞くことができてよかった。市内の人の参加が少なかったのが残念であり、課題だと感じた。
- ・ 自分が想像していた会議と異なっていた。

## 6. 印象に残ったこと

- ・ 不人気の農業でも仕事の分業、組織化や企業理念がしっかり示されていれば、現在の若者に選ばれると感じた。
- ・ 宜野湾市の自治会長は、若年化が始まっています。私の地元の長田区は、30代の自治会長で、若者の自治会活動が活発になっています。南城市でも若者が自治会長になるための制度づくりや、報酬など、検討してもいいのではないのでしょうか。
- ・ パネリストとのサブセッションを行うことで、セッションⅡの話が近くなった。
- ・ 大手企業の沖縄支社を誘致してブランド意識

を高める。新規企業の立ち上げにフォロー（行政）をして、新しい産業が生まれやすいベースを作る。

- ・ 若い人の働く場がないが、一次産業は人手不足。（このマッチングができないか。儲かる、将来のビジュアル一次産業）みやぎ農園の成功、これとどう広げるか。
- ・ 南城市内には高校があったら良いと思う。
- ・ 農業や観光業に於いて親が子供に対して同業に就く事を反対しているのはショックでした。若者・大学生の自治会活動への参加。コミュニティを守る為には、必要と感じました。教育プログラムに地域貢献を組み入れるのは、良いと思います。
- ・ 南城市にはまだまだこれからの可能性があると感じた。課題があるということはそれだけ伸びしろがあるということ。若者に魅力を感じてもらえるまちづくりのために、自分もその一端を担っていることを意識していきたい。良い機会をありがとうございました。
- ・ チームセッションの中で、玉城庁舎後にインターナショナルスクールを作りたいという意見があった。地域の担い手となる若者が世界に目を向け、集まる場があれば、新しい事や地域への活動にもつながる。

(写真) 会場の様子





# 若者の定住と働き方考える

## 地域円卓会議 in 南城市

<主催>琉球大学・名城大学

2017.3.5(日) @南城市役所 大ホール

遠藤 部長 (1129~) | 玉城 部長

COC+事業 (1129~)

地域の大学 etc. | 大学 & 地域

雇用創出 | 人材育成

**地域円卓会議**  
地域をよりよく  
社会課題を 共有 共有 共有

**チャンスを活かす  
地域人材づくり**

# 論点提供

## 玉城 部長

佐敷 新里 出身  
規制 南港のまちづくり  
H22.8月 起 → 人口増加  
合併を契機に  
南港の中で2016年で  
人口増加率が他府県より  
都市計画員達

本籍地人口 6,000人 戻ってきている

土地利用の規制をはずすことで

知念の人口の減少

他県転入者 毎年1割 (20%) 増やす  
病院は市内1つ  
先着の都市拠点  
中核地 → エコホテル  
新市役所 2,000台の②  
集約拠点 → きしごう

2010 3,500 | 2011 4,100 | 2012 3,800 | 2013 3,500 | 2014 3,200 | 2015 3,000 | 2016 2,800

200棟 3パート 3,000人

- 自治会加入促進も 重要
- 学校 がんばり続けることも 課題も

● 農水産業 (特産品) の振興  
● コミュニティの醸成  
● 福祉財源 → 人口減少 高齢化 行政課題

仕事につく  
300名~500名  
ソニー 育成センター  
地元 育成センター  
(10人パート) 環境整備の確保  
資源の人口は3

## 住+場

工場の かつより あり 利便性

## 交通

デマンド交通 (市内)

## 農水産業に若い人

入ってほしいが... 未定

## 観光業の中での

観光業の 指定管理  
市民交流員 研修センター (新市役所)  
若い人の仕事に...

## 3世代居住が... 独立世帯少ない

## 新城 (つぎし自治体)

28年目 (自治会発足)  
元は石山 1200名  
800区画あり、400区画に家  
ドーナストラップに変わったが、  
H22~会長

20代~30代 学生  
企業 出資

## 竹内

雇用創出 協賛会  
1次産業にかわる (ごごご)  
大手企業 指向  
安定・給与  
市外・県外へ  
企業人が足りない、  
6社程度しかない企業  
新卒者 職場で 育成して  
給与 3年5年7年を  
つづけてほしい  
投資の価値 あるのか  
給与 最低賃金に近い  
仕事へのイメージ 上げ  
ことが 必要 (求め3割)

子どもたちは、外へ出て  
戻ってきてほしい。  
子どもたちも、  
つづけるべきがない

20代30代の人  
区長 抱いてほしい  
地域で働くにつれて  
社会へ出ていく

## 仕事の多様さ わかった

## キャリア教育 必要

## 大卒の居場所 つきにくい

## 西銘

19歳 知念 うちの  
知念小 → 知念中 → 市内高校  
290名 (旧校舎)  
40名 (現校舎)  
99名 (旧校舎)  
アレンジャー  
感じています

## 平野 先生

琉球大学  
60人 → 3割が 観光業へ  
観光科 専攻  
入学倍率 1.8倍  
2倍増と問題がわかってる  
給与水準 職場探求  
子どもに親が かせいでる  
物業のビジョンが  
つかない  
これから  
100ホテル 必要  
20,000室  
1500人以上 想定  
100人の総支配人  
500人の部長

## 雇用対策

人口減少  
住居・通勤手段  
那覇で働けるが...

## 宮城

おかげで 563~  
1700 (30年) 少ない  
キホムからの 全て 換金 する  
正機 9% 10% 9%  
4年 支え、11~お  
5年 支え → 大卒は 残った  
事務職 1年 支え、残  
環境  
行政が 一生懸命  
経営者 いる 思いが 足り  
農業が 高齢化 している  
小学校が 農業 受け継ぎ  
キホム

## 天久

記事が 多い  
4つ 合併  
発信する人が 多い

市内にある  
産業の 活性化

開発による  
環境 負荷

大卒生も  
居る 南城市  
の こと 多く  
知らない の ではないか

サブセッション

## 自治会長

自治会長の 役割  
今の 700  
自治会長  
選挙の 準備が  
必要  
選挙の 区長は  
重い  
小中高  
交付金 減  
大卒 在学中の  
コミュニティ  
参加 必要  
自治会  
活動 減  
自治会  
活動 減  
自治会  
活動 減

自治会長の 役割  
今の 700  
自治会長  
選挙の 準備が  
必要  
選挙の 区長は  
重い  
小中高  
交付金 減  
大卒 在学中の  
コミュニティ  
参加 必要  
自治会  
活動 減  
自治会  
活動 減  
自治会  
活動 減

働く人のやりたい事をベースに  
(世界) (スキル)

色々なことをかけ合わせて

高付加価値化する!!

ex) 農業 x 観光

創造的に  
(ワケ)のあそび

みやぎ農園の

水産業モデル

南城市における、ゆるゆる業種

大卒者が

◎ 南城市 には どの業種も 若い

◎ 専攻と 仕事 がある人は 取り戻す

◎ 魅力ある 経営者 を 増やす

① 情報発信  
② 下取り  
③ 外的要因 (例) 消費者の人口増加  
④ 経営者 (例) 南城市の人口増加

# 高校を作る (SONY 高校)

・ 内地で死ぬのは  
イヤだ。

・ 老後は 沖縄

・ 一度外へ 出た若者  
が 戻って 来る 環境 づくり

・ 受け入れ先は 多く、仕組みづくりが  
必要 → 大学 起業 ベンチャー が 地域 へ  
ビジネス モデル を 創り 出す  
・ リーダー 的 望望 + 技術 知識

・ 企業 行政 社会 へ  
目に見えぬ 役割 がある

・ IT 関連 企業

・ コーポレート

・ 大企業 の 本部 機能